

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	樹保育園
法人名	NPO法人すぎなみ子育て広場chouchou
法人所在地	東京都杉並区上荻3-22-13

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・身近な音
- ・リズムを刻む
- ・自分なりに表現する

<テーマの設定理由>

- (テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
- ・色々な音に興味を持てるよう子ども自身で音を予想してみたり、自由に表現できるようテーマを設定した。
 - ・生活発表で世界の踊りについて深めたので、日本の踊りにも目を向け沖縄舞踊のエイサー踊りに取り組んだ。自信を持ってリズムに合わせて楽器を鳴らしたり身体を動かしたりする楽しさを味わうことを目指した。

2. 活動スケジュール

- ・R7.12~
- ・R8.1.29 生活発表会 (エイサー披露)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- (活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
- ・タンバリン、カスタネット、ギロ、鈴、ウツブロック、トライアングル、太鼓、パーランクー他
 - ・子ども自身で興味を持った楽器から選び、又それぞれのタイミングで楽器を変えたりしてこちらから制限し過ぎず自由に音を鳴らせるようにしていった。
 - ・定期的に園長よりエイサー指導をしてもらい、日程調整をしていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・楽器の音を予想する。
- ・楽器を鳴らしてみる。
- ・拍打ちをしてみる。
- ・合奏する。
- ・エイサーを踊る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・初めて見る楽器を鳴らし、「鳥の鳴き声みたい」「ナムナムの音だ」「かわいい音だね」「チーン」等身近な音や感じたまま例える姿が見られた。子どもたちそれぞれの自由な表現を肯定的に受け止めていった。

・合奏は子どもたちに馴染みのある歌を選曲し、後のエイサー踊りでも使用した。

・表拍と裏拍にわかれて拍子打ちをする際はお互い見合い、気づいた点を発言し友だちに知らせていた。友だちへの伝え方が強い児には、よりよくなる所を見つけたことは認めつつ、やりとりを通して相手の気持ちも気かけられるよう、保育士が言葉の言い換えを提案していった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子どもそれぞれの慣性があり、自分なりの感じ方や表現方法を保育士が認めることで自信がついたり、より独創的な発想が生まれ自己肯定感も高まっていくのだと改めて感じた。又集団活動の中で発見や気づきを言葉にし友だちと共有する点で、互いに認め合い、仲間意識を持つことにもつながるのだと感じた。

・音楽を聞きながら楽器を鳴らす経験からさらに身体を動かす活動へと広げ、生活発表でエイサー踊りをした。友だちと音を合わせリズムを刻む面白さや揃った時の感動体験ができた機会だったと感じた。